

## 雑報〔II〕

### フレアは波に乗ってやってくる

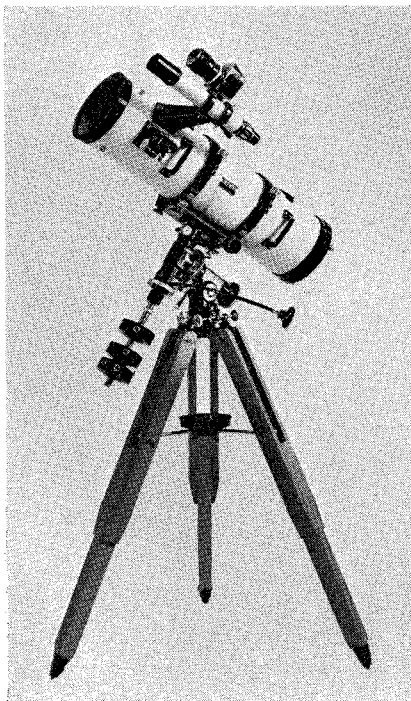
太陽フレアが磁場に伴う現象であることに疑いないが、光学観測を主眼として彩層現象とみるか X 線・高エネルギー粒子惑星間空間衝撃波を中心にしてコロナ現象とみるかは時代とともに変わってきた。後者の方がエネルギー規模が大きいため、コロナ中の磁場にたくわえられたエネルギーを急激に解放するという考え方がこれまでかなり広くおこなわれてきている。しかしこれには異論のあるところで、高倉、内田、鍋木などが国の研究者には光球下の運動に直接のエネルギー源を求める傾向が強い。J.H. Piddington (Solar Physics 38, 465, 1974) は光球下に横たわるねじれた磁束が根源で、黒点とその附近に磁場が顔を出すと、このねじれはアルフベン波として伝わり種々の現象を起すが、これらの総合がフレアであると考えた。種々の現象とはねじれのゆるみ、磁束の細分化、磁力線のつなぎかえ等であるが、いずれの場合も磁束のねじれが主導的な役割りを果たした。

アルフベン波が黒点の形成に不可欠であるという考え (E.N. Parker Solar Physics 36, 249, 1974) が有力になってきているところへ、フレアの主役もアルフベン波であるとすると、まさに太陽物理のタレントの資格充分である。(海野和一郎)

### 世界第二番目の位置天文学用大口径反射望遠鏡

イタリアの Turin 天文台に 41 インチ反射望遠鏡が作られた。この望遠鏡によって星の三角視差を求める。この種の位置天文学用反射望遠鏡の最初のものは、アメリカ海軍天文台フラッグスタッフ観測所の 61 インチ望遠鏡で、この 20 年間に視差の測定された星の数を 10 パーセントも増大させた。61 インチの限界等級は 17 等で、41 インチのは 14 等でやや劣るが、従来のものより数等暗い星まで観測出来るので、位置天文学用望遠鏡として期待される。

従来、反射望遠鏡が位置天文学用にあまり用いられなかったのは、望遠鏡内の空気熱擾乱が大きいためであったが、Turin の望遠鏡の場合には、ドームその他に工夫をして、位置天文学用望遠鏡として安定した精能が出せるようになっている。(磯部秀三)



## 15cm新時代をひらく CX-150型 反射式赤道儀

D : 153mm f : 1310mm

定価 180,000円

- コンピューター設計による高性能新光学系  
〈球面主鏡+補正・延長レンズ+斜鏡〉
- 鏡筒長は同等 F 値 (F/8.5) のニュートン式  
に比べ約 60% に短縮
- 震動性の低減にともない、剛性・精度を保ちながら  
軽量コンパクト化に成功  
(組立重量 27kg)
- 短焦点化 (F/5.6) 用付属レンズ開発中  
カタログ呈(誌名記入)

本製品は東京都知事により開発助成並びに輸出推奨品の認定を受けました。

## ミザール望遠鏡

**MIZAR** 日野金属産業株式会社

本社 / 東京都目黒区碑文谷 1-10-8  
〒152 TEL 03-711-7751(代)  
大阪支店 / TEL 06-757-5801(代)